第３回府中町単独自治調査研究審議会 議事録

●日　時　令和８年１０月１６日（金）　１４：００～１５：３０

●場　所　府中町役場　本庁５階　第１委員会室

●出席委員　石田委員、上之園会長、梶川委員、小濱委員、坂本委員、宍戸委員、
篠永委員、鈴木委員、田村委員、内藤委員、二宮委員、花田委員、益村委員、
門前委員、山本委員、米田委員

●欠席委員　大東副会長、竹中委員

●オブザーバー　広島県 地域政策局 市町行財政課　岩本参事（代理出席）

●町出席者　寺尾町長、桑原副町長

●事務局　谷口総務企画部長、藤永政策企画課長、西山政策企画課課長補佐、浅田主査

●内　容　１．開会
２．町長あいさつ
３．資料説明・意見交換等
４．事務連絡
５．閉会

●配付資料　【資料１】　配席表
【資料２】　全住民向けアンケートの実施について
【資料３】　第３回府中町単独自治調査研究審議会資料
【参考資料１】住民向け活動の概要
【参考資料２】第３回自治制度調査研究特別委員会 議事概要

●概要

１．開会

２．町長あいさつ

３．資料説明・意見交換等

資料２～３に基づき、事務局から説明

（花田委員）

これまでの繰り返しになるが、市になって何を目指すのかが全くクリアになっていない。資料の４ページに「人々の価値観や生活様式の変化によって多様化した新たな暮らしに対応する必要がある」と書いてあるが、これを実現するために我々が向かうべきなのは、14 ページにある「まちの都市的イメージを更に向上させる」ことなのか。それだと、広島市と何を差別化して、何を強みとしてやっていくのか。差別化できなければ市になる意味は全く無い。調査研究の内容が乏し過ぎて全く理解できない。

（事務局）

広島市との差別化ということについて、今までは人口が日本一多い町といったＰＲもあったと思うが、その一方で、今後の人口減少等もあることから、町として存在感を出していきたいということがあり、ブランド力を高めていく必要があると考えている。市になることが全てではないが、どの自治体でもできる話では無いので、全国的に通用するアピールとして有力な方法であると考えている。

市になっても制度としては変わることが少ないので、はっきりと何が変わるとは申し上げにくいが、名前を知ってもらうことはプラスになると思うので、府中町の存在感を高め、選んでもらうことにつなげていきたいと考えている。

（町長）

これまでの審議会でも話をしているが、町の総合計画を実現するための一つの手段として、市制という方法が有力ではないかということで説明をしている。市制が全てではないが、総合計画の目標を達成するためにブランド力を高めて、周りから人や事業を呼ぶために知名度を上げていくといった、府中町を全国にアピールしていくために市制という方法を取るべきではないかということである。

これまで説明したように、町村と市では、やはり都市的なイメージが違うことがある。人口が５万人おり、商工業に従事する割合が６割以上といった都市部である

ことを市という名前だけで全国にアピールできるし、行政内部的には、市同士での情報交換ができて、さらに行政の密度が上がっていくのではないかということがある。

究極的に目指すものは、第５次総合計画の実現、人口の維持であると、今回の資料に基づいてご理解いただければと思う。

（上之園会長）

第５次総合計画を実現する手段ということだが、町だと難しい、市の方が良いことは何かあるか。

（町長）

先ほど言ったように、町村というと基本的には人口が少なく農村地域というイメージが強いが、府中町はそうではなく、都市部であり、人口が集約する地域である。市という名前が付けば地域がどういった状況であるかが分かり、これをアピールすることで知名度向上にも使えるのではないかということである。例えば、今回府中町出身者で著名な方が出たが、その方の出身地が市であれば、イメージが全国の人に分かるのではないかと思う。

（花田委員）

手段が先に来るというのは、そもそも考え方として間違っている。「我々はこういったまちづくりを目指す」というビジョンがあり、それに対して「こういう強みを生かして魅力発信をしていく」ということがあって、その次に手段が出てくるわけであり、達成するためにどういう手段が必要なのかという話だと思う。

将来的に我々は何を目指していきたいのか、どういう強みで、どういう戦略で戦っていくのか差別化していかないといけない。町はブランド力と言っているが、ブランドが何かもさっぱり分からないまま手段の話をしている。それをずっと繰り返し言っているが、理解していただけないので非常に腹立たしい。

例え話をすると、部品を作っていた会社が「完成品を作ればもっと皆に知ってもらえるので来年から完成品を作る製造会社になります。ついでに社名も変えようと思います」といった話をして、社員がどう思うか。「我々の会社はどんな商品を作って、どういうコンセプトで作って、どういうマーケットでそれを売って、どう他との差別化を図るのか。それで儲けが出るのか、会社が発展していくのか」と当然聞くはずである。

そんな当たり前の話を聞いているが、その答えが全く返ってこない。イメージで農村や都市と言っているが、結局我々は都市的なまちづくりを目指していくのか。それで広島市とどう差別化するのか。

（町長）

今の例え話で言うと、府中町は、今までは完成品を作っていたが、部品工場だと見られていたということである。要は、都市的な自治体であるが、町という名前のために農村部として見られていたのを、都市部であることをはっきりさせることであり、それをブランドという言い方をしている。

だから、中身を大きく変えるという話ではなく、今の府中町は市並みの自治体であるから、それを分かりやすく名前を変えるということである。看板を変えるという言い方をしていたが、そういう意味でのブランド力であるし、差別化というのは、農村地域ではなく都市部であるところのブランド力ということである。

前にも言ったように、制度や税金が変わるという話ではなく、府中町の都市的な実態が名前によって分かりやすくなることである。その都市というのは、地方自治法で定める人口５万人以上、商工業に従事している人が６割以上、人口密集地が６割以上という要件をクリアした地域という意味であり、名前を変えることでそういったことを売り出したいというのが私の思いである。

（花田委員）

それならば、町という名前で都市的なイメージが訴求できていない、皆さんに理解してもらえていないというエビデンスを提示すべきである。「そう思っている人がいるのではないか」というイメージだけでは全く議論が前に進まない。

何度も言うようだが、都市的イメージで行くのであれば、隣の広島市は広島駅周辺の再開発もあり、どんどん都市的機能が出てくる。その広島市とどう戦うのか。都市的イメージが付いたら、「なぜ広島市と合併しないのか」とならないか。都市的なイメージを推進していくことが、まちづくりの本質なのか。

（町長）

私が言っている都市というのは、地方自治法の市としての要件を都市という言い方をしているのであり、決して広島市並みという意味ではない。市町村とある中で、市のことを都市と言っているのであり、府中町の実態は地方自治法で言う市、すなわち都市であるということを、全国に分かりやすく発信する、名前を変えれば分かるということで言っている。

（花田委員）

それを分かってもらって何になるのか。それが魅力発信になり、ブランド力が高まって人が集まってくる根拠に全く結びつかない。

何度も言うが、そういう不具合がある、理解してもらえないということがあるの

ならば、ちゃんとエビデンスを提示して「私たちは損をしており、そのイメージを払拭するために市になる」という話をしないと、全く根拠も無いのに市になりたいだけとしか聞こえないので、そこの根拠を提示すべきである。

（町長）

具体的な根拠があれば提示したいが、そういったものが無いので非常に苦労しているところではある。ただ、実際に色々な先進自治体の実態を調査してきた中で、どの自治体も都市的なイメージを確保するために町から市へ移行しているということはある。そして、市に移行した自治体に議員も含めて話を聞いたが、決して市になって悪かったことは無い、市になって存在感をアピールできたという話を聞いている。それがエビデンスかもしれないが、日本全国で５万人を超えて残っている町は府中町だけであり、やはり市になったらそれだけ地域のイメージやブランド力について、住民だけでなく対外的にもアピールできると思う。

府中町も村から町に変わり、さらに市の条件をクリアできるところまで来たので、是非そのようにしたいというのが私の思いである。今のままという方法もあるとは思うが、全国の自治体が市を選択していることから、府中町としても後に続いて、市へ移行したいというのが私の思いである。

（花田委員）

結局イメージだけの話をしているので、そう思う人もいるだろうし、思わない人もいるだろうという話でしかないので、市にならなければならないことにはならない。都市機能を持っており、市としての要件を満たしているから市になると言われても、我々は今の状態で何が駄目なのかが分からない。また、他の自治体も良かったと思っているとのことだが、それは行政の人が言っているのか、市民が言っているのかも、よく分からない。

結果が伴わないと駄目だと思うが、市になった結果として狙いが実現したのかについても研究調査をしているのか。なって良かったといった気持ちの部分なんてどうでもいい。結果が出ていないと何の意味も無いので、そういう覚悟がそもそもあるのか。やってみないと分からないと言われたら、本当に馬鹿にしているのかと言いたくなる。

結果責任をちゃんと取れるのか。やるのなら相当の覚悟を持ってやらないといけないと思うが、その覚悟が全く見えない。軽く考えてといった話かもしれないが、そういうことではないと思う。それなりの覚悟を持って、もっと強い思いを発信していただかないといけないと思う。

（町長）

そういう見方もあるかもしれないが、先ほど言ったように、制度や税金が変わるものではなく、また、市に移行したがマイナスであったので町に戻った自治体も無い。

やはり自治体にとって市は一つのブランドであるし、以前は、人口が５万人いなくても合併したら特例で市に移行できるといった、合併を促進する策として市が使われた時期もあった。やはり自治体に関わる者としては都市的なイメージをアピールする一つの大きな目標になるものだと私は理解している。

決してマイナスになることはないというのは、自治体職員だけでなく、住民の方からもマイナスの声は聞いていないという話を職員の方から聞いており、大きく失敗したり、取り返しがつかないことになったりしたという話は聞いたことがない。

（花田委員）

市になろうが町のままだろうが、多分言われるように何も変わらないと思うが、お金をかけるのだから、何も変わらないで本当にいいのか。そこをしっかり突き詰めて考えてもらいたい。

何年も昔にもこういった話をして、町民の意向としては広島市との合併がほぼ過半数になっているが、それでも単独市制で行くということであれば、それなりの覚悟を持たなければいけないと思う。前回の会議で「市になる条件を満たしているのに何故市にならないのか」といった責任論の話があったが、そんな責任論の話などある訳が無い。逆に、市になった時に「単独で市になったのならば、もっと責任のある行動を取れるのか」といった責任を問われると思う。その時に我々はどういう立場で話をすればいいのか。そういう計画もこの中には全く無いので、そういうところをしっかり考えてもらいたい。

また、市になって名前が変わったらブランドが上がるというが、そんな訳は無い。そういうところを突き詰めて考えて、だから市になりますということなら分かるが、手段が先に来ているのは、絶対順番が間違っている。

（町長）

市になるから責任を問われるというのは何のことを言っているのか分からないが、町から市に変わることで基本的に制度は変わらないし、行政として責任が増えることも無い。ただ、これまでも説明しているとおり、町と市の扱いで一番大きく違うのはマスコミでの取り上げ方があり、そういったマスコミを通じた情報発信に非常に大きなメリットがあると思っている。

（花田委員）

マスコミに取り上げられたら人口が減らないという話ではないと思う。結局、中

身の問題であり、中身が全く無いまま名前だけ変えようとしているから、何故なのかと言っている。

先ほど、市になることの責任論の話が分からないと言われたが、単独市になると、他から「都市機能を持ってレベルアップしたのならば、それなりの身構えもすべきだ」と言われるのではないかということである。市と言われる一定の都市機能を持ったということで、それなりの身構えもして、行政もそれを果たしていくのかということであり、例えば、災害があった時に、どこにも助けを求めず自前で何でもやるくらいの覚悟はあるのかということである。

そういった「我々はしっかりとした町だから、これだけのこともやっていきます」ということを発信していくべきだと思うし、それが町の力の見せどころだと思うので、そういう中身がないまま市になるのは何故なのかということである。

（町長）

市になって何をしたいかという部分については、第５次総合計画を実現するということである。市になるのは、町から市になる基準に達しているということを言っており、市になって災害対策を万全にするという意味ではない。高校数の要件のことはあるが、基準に達しているから市になると言っているのである。市になって何かやるというのは、総合計画の実現を目指したいということを言っているのであって、市になることでこういうことができると言っているのではない。

地方自治法に市になる要件が書いてあり、その要件をクリアできる状況になったのだから、法律の規定どおり市になろうというのが私の思いであって、それによって府中町の実態を広く全国に知ってもらえることを言っている。要は、基準に達したから１つ上に行こうというだけの話である。

（花田委員）

市になることがブランドではない。中身の問題であって、名前が市になったからブランド力が上がる訳が無い。例えば、教育機能を強化して先進的なまちづくりをしているということであればブランド力を発信できると思うが、府中町が市になっても一過性のものである。せいぜい１年くらいであり、それをブランドと言うのはどうかと思う。

（町長）

私が言うブランドというのは、市になることがブランドでもあるし、暮らしやすい便利な所という府中町のブランドを市ということでアピールしたいということでもある。府中町の実態をしっかり全国にアピールするため、市というブランドを使いたいということである。

（上之園会長）

本日は皆さんが来られているので、他の方にもご意見を伺うこととし、また最後にご発言いただければと思う。町の説明の主なものは今回で最後になり、次回はアンケート結果の数値が出てきて本格的な分析、研究になってくるので、これまでの説明でまだはっきりしない、明らかにしておきたいことがあれば、今の関連でも、違うことでも結構なので、皆さんにご意見をいただければと思う。

（山本委員）

私は竹原の出身であるが、小さい時に村から町になり、旗を持って万歳と言ったことを思い出す。

府中町はもう市の条件があることは間違いない。福祉事務所が既にあるほか、予算的にも大きいということで、町であっても十分メリットを受けていると思う。

順番としては国、県、市町村であり、子供から大人になるという表現があるように、それに見合う形になっていくということはある。反対するとすれば、経費のことや住所を変えることはあるが、私自身は市になる資格はあると思う。人口日本一の町にこだわることもあるとは思うが、今後人口が５万人を切ることも考えられる。

（梶川委員）

役場の入口に昭和 53 年に制定された府中町民憲章の碑があるが、その前文に「わたしたち町民は、安芸の国府であった府中町の伝統を大切にし、平和で豊かな新しい町づくりにつとめます。そのため、つぎの合いことばを定め、お互いにはげまし合って実行します」という文章がある。府中町の個性は何かと言ったら、ここに国府があったということである。江戸時代の村と同じ規模で残っている町はここと坂町しかない。これがまずブランドである。もし広島市と合併したら、広島市の中にある地域で終わってしまうが、府中という名前の単独市が広島市の中にできることが、将来のブランドに必ず繋がると思う。

今、何が得か損かといった話ばかりされているが、文化的な意味で言えば、単独市制で府中町があるということは、将来に誇れるブランドになると思う。

（米田委員）

住民アンケートで、府中町は県内で一番住みやすいまちということであり、駅から近い、山も近い、スポーツ施設もあるといった、そういうところを伸ばしてブランド力を生かしていけばいいのではないかと思う。

個別の話になるが、障害福祉の代表ということで一言申し上げると、広島市と比べると障害福祉のサービスの量について、例えば広島市が２だったら府中町は１と、

査定がかなり厳しいところがある。それと、障害者のグループホームがたくさんあるが、広島市がサービスの量、報酬は多くなっており、府中町はちょっと負けていることがある。資料８ページにあるが、基本目標の「年齢や障がい等に関係なくさまざまな人がともに支えあい、社会に参加する」ということで、障害福祉にも、もう少し注力していただきたいと思う。

（田村委員）

２点質問したいことがあり、１点目は、住民説明会や中学生へのアンケートを取っていると思うが、これを住民に示すことはしないのか。示さないのならば何のために取ったのか疑問に思う。あと、11 月に取るアンケートを次の審議会で報告することについて、町民にはどのように周知をするのか。また、一部の町民からは、公平なアンケートの集計になるのか、立会人が必要ではないかという声を聞いており、アンケートをどのように処理していくのかを知りたい。

２点目は、やはり町民が言っているのだが、この物価高騰の中、８月に示した２億 1,000 万円の移行経費について、それだけで済む訳がないという多くの意見がある。これについて、詳細に試算したのかということと、11 月のアンケートの前に金額をもう一度示すことはしないのかを聞きたい。

なお、市になる場合、住所変更といった費用も自腹でかかるので、そこはどうなのかといった声も聞いている。

（事務局）

説明会等のアンケートの結果については、当然示す予定ではある。ただし、11 月に全住民対象のアンケートを行うため、そちらへの影響を考慮して、これから行うアンケートの結果と合わせて公表したいと考えている。

次に、11 月のアンケート結果を町民に公表することについては、詳細はこれから決めていきたいと思うが、審議会への提示と同じタイミングで住民にも公表したいと考えている。審議会の資料は終了後に速やかにホームページに掲載しており、いずれにせよ表に出る情報にはなっている。

次に、経費については、内訳としてシステム関係や物品関係など色々あるが、それぞれ業者から見積を取った金額としている。これについては、市制施行を行う場合、実施が１～２年後になるので、そういった時間軸で見積を取ったものではある。物価高騰等の世の中の動きがあるので、１～２年後に絶対この通りになるといった約束はできないが、現時点で見積もった金額ということになる。算出にあたっては、時間がかかる上、業者に労力をかけさせることにもなるので、今からアンケートまでに取り直すことは考えていない。

あと、住民負担の部分であるが、ものによっては個人で住所変更の手続きが発生

することを他の自治体から聞いている。これについて、他の自治体を色々調べたが、負担に対する補償を行っている自治体は無いため、当町においても、申し訳ないが同様の対応としたいと考えている。

（事務局）

補足だが、アンケートの住民への開示方法については、おそらくホームページでまず公表することになると思っている。広報紙については、期限の関係もあるので、おそらく２月号に掲載することになると考えている。

（田村委員）

集計の時に公正な立場の人を入れるといった考えはあるのか。

（事務局）

立会人を付けることについて、今決めているわけではないが、もし実際やるとなればかなり大変な話になると思われる。少なくとも、実際のアンケート用紙や集計結果等を残すようにして、後から検証ができるようにしておきたいと考えている。

（二宮委員）

総合計画の説明については、前回、是非とも一度聞かせていただきたいと希望したものであり、改めて理解が深まった。また、アンケートについても、設問が２択の１問になり、住民の意思が明快に分かるので、これも良かったと思う。

その中で確認したいのが、参考資料２の１ページ目の末尾にアンケートの取り扱いがあり、アンケート結果については基準を決めて実施するのではなく、町長として総合的に判断するとある。今回アンケートが分かりやすくなったことで、結果は極めて明快に分かると思うが、複合的に判断する中で、アンケート結果の重みをどれくらいで考えているのか。また、アンケート結果以外に考慮しようとしている要素を教えていただきたい。

（町長）

判断にあたってはアンケートが一番重いと思っている。結果が拮抗した場合や、何割以上ならどうするのかといったことはあるが、そういった判断を含めて、ここの皆さんの意見や議会の意見を踏まえて、最終的には私が判断したいと思っている。

このアンケートと、住民説明会や中学生などのアンケートを皆さんへお示しして判断したいと考えており、住民意見を最大限尊重して取り組みたいというのが私の考えである。

（鈴木委員）

私は全国規模の転勤族であり、府中町に着任する前のイメージは非常に悪かったが、着任した後は本当に違和感があるくらいギャップが大きかったこともあり、私は市になることについては賛成している。企業の中でも、やはり最初は郡の町ということで、「どんな農村部だろうというイメージであったが、着任してみたら全然違う」といった意見をよく聞いている。

あと、これは違う話だが、資料 12 ページに移動の円滑化があり、これは是非チャレンジしていただきたいと思う。今後、交通弱者が増えていくと思われ、バスの運転手も減っていくという話も聞いているので、自動運転といったところにもチャレンジして、広島市との差別化につなげていただければと思う。

（益村委員）

まず、第５次総合計画について、方針がきちんと出されていることを聞けて良かった。やはり暮らしやすいという言葉が合っているまちということで、目指す所もそこであると改めて確認することができた。第５次ということは、第４次までの計画があって、そこで町の行政や町民の皆さんが頑張ったから市の条件を満たしたのだろうと思うので、本当にめでたいことだと思う。

その中で、メディアの立場から話をすると、ブランドを作るという話がたくさん出てきているが、誰がまちを作るのかと言うと、行政だけではなく、住民や企業など関係する皆さんもだと思っている。せっかくの良い機会だと思うので、市と町のどちらになったとしても良いまちだと言えるような気運、次に向けて頑張ろうと言えるような文化を作ることがブランドなのではないかと感じている。そういった発信ができることで、町民も含めて皆が一体になれるのではないか。文化を作ることで言うと、せっかくいい方針があるので、ぜひ機運を作っていただきたいと思う。

（石田委員）

私のＰＲ大使という立場では、どちらの意見に賛成とは公に言いにくいところはあるが、事実として感じるのは、来年の１月末に 90 周年の式典があり、町に変わってほぼ１世紀と非常に長い期間が経っているということである。それは、この 90 年を培ってくれた先輩方、金メダルやノーベル賞を取られた方もいらっしゃるが、先輩方の 90 年があったから今があると思うので、ある意味でもう時が来たのではないかという印象がある。

市になったら何が変わるとか、何が作られる、メリットがこれだけあるといった条件が必ず全て揃ってから市に移るのではなく、この 90 年目の今の時代に、時が来たというきっかけで市に変わる。その市を今からの若い人たちが築いていき、これが伝統、文化に変わっていくという面もあるのではないかと、私の文化の立場とし

て感じている。
　市になるのであれば、そういった前向きな考え方があると思うし、一方で、町のままということになれば、町への愛着を守っていくという面で良いと思う。

（小濱委員）
　私は元々府中町の人間ではないが、あまり町であることは考えず、現場を見て住み良い町だと思ったので住むようになった。そして、実際に住みやすかったので、そのまま居付いている。
　私が今思っているのは、市になるにしても町のままであっても、これをきっかけに色々な人がまちのことを考え始めていると感じており、行政は皆さんの声を大切にしてほしいと思う。町民自身がまちづくりに参加する主体となっていかないと、これから高齢化社会が来る時に立ち行かなくなるので、自分たちのまちを自分たちが作っていくという思いを大切にしながら、そういう姿勢で行政を進めていただければと思う。
　また、「暮らしたいがかなうまち」とあるが、具体的にこんなまちで暮らしたいというのは、皆さんの中にそれぞれあると思う。その具体的な暮らしたいを皆さんで出し合わないと漠然としているので、出し合えるような場を作ってほしいと思う。

（花田委員）
　小濱委員の言うとおりであり、市になるか町のままなのかという議論の中で、町民が色々なことを考えていると思う。私は元々府中町の出身ではなく、外から来ているが、非常に暮らしやすいし、人と人との距離感が近いので、そういう意味で過ごしやすいとは思っている。これから私たちがこの府中町をどんなまちにしていくのかということを真剣に議論して、こういうまちになったらいいというのが一本化できたら、もっと素晴らしいまちになるのではないかと思う。

（篠永委員）
　最後に、先ほど町長がどちらになったとしても住民の意見が一番と言われたのを聞いて、安心している。

４．事務連絡

５．閉会